



## 庭師の足箒

手を使って掃除をすべきところを、足を使ってしまったことから辞めさせられそうになった「庭師の足箒」という逸話がある。

さる大屋敷の庭の植木管理を任

木の枝を、箒の代わりに足を使って掃いている庭師の後始末の仕草を見てしまったからだ。

「『手でする事を足でする』。人が見ていないと手を抜くような横着な者には、大事な仕事を任せるわけにはいかない。『一事が万事』。

## 転期に立つ経営の視座② 手でする事を足でする

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。『介護ビジョン』編集委員。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に『99の言葉の杖』(日本医療企画)、『早川浩士の常在学場』(筒井書房)、『介護人材創造塾』(筒井書房)、『介護保険改正に勝つ! 経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。

<http://www.hayakawa-planning.com>

ブログ: <http://ameblo.jp/hayakawa-planning/>

された庭師が、帰り際に主人から呼び出され「明日より、出入りは禁止である!」と言いわたされた。

主人は、庭師の仕事ぶりを障子の隙間越しから見ていたところ、驚きの光景を目の当たりにし、クビを宣告したのである。

それは、剪定して地面に落ちた

誤魔化し者は、信用できない」

一つのこと(仕草・動作)から庭師の心がけや心構えを一瞬にして見抜いた洞察力の鋭さと、妥協を許さぬ視座を持ち合わせていたのである。その主人は、

車いすを足で押す介護職はいないと思うが、どうだろう。

手を使うべきところを足で片づけてしまうことは、正しい方法を

教わっていたとしても身につけることなく、身勝手な(誤った)方法が染みついてしまったということに他ならない。

主人に平身低頭して詫言った庭師は心を入れ替え、のちに誰もが認める庭師に大成したという。

正しい方法で行わず、間違った手段を用いてしまったことを戒めた「手でする事を足でする」の諺の意味が自問自答できるような介護職を育てることこそが、上に立つ者の人材育成の心構えであると考ええる。

### 誤魔化しは、身から出た錆

さて、「正しい方法」や「正しいやり方」の「正」とは、何か?

「正」という字は、「一」と「止」の二つの漢字によって成立することから、「一に止まる」とも言う。「一」線を引いたところに「止」まるから、「正しい」のである。

あるべきかたち(一)を示し、そこに止まることで、「正しい」ことであると評価される。

仮に、「足箒」こそが「正しい」とであるとしたら、「足でする事

を手でする」と諺も変わっていたことであろう。

改めて正しくすることを「改正」というが、制度改正や税制改正の意味合いも同じこと。

「一」は、どこに引いたか。または、どこに「一」を引き直したのか。

「一」の位置は、ずれてしまったのか、大きく動いたのか。

最初に引いた「二」は、そこが定位置であるとは限らない。

「二線」を「引く」から「抜く」。

「二線」を「画す」から「隠す」。

「一線」を「置く」から「越す」。

3年ごとの改正は、このように考えてみるとよい。

人材育成も同様である。道徳的に見て善悪の対象となる行いのことを品行と言い、心や行いが正しいことを方正と言う。

「品行方正」を問われて(一)位置を引き直し、新たな(一)位置に止まって改心した「庭師の足箒」の話から何を学べば良いのか。

「手でする事は手でする」「足でする事は足でする」それを「誤魔化す」ことだけは、断じて許してはならない。

誤魔化しは、身から出た錆。